

ハンセン病という病気は皆様も御存知のように、体の末端部に変形をもたらす病気で大変残酷な病気です。聖書の時代は不治の病と言われ、かかったら最後という病気でありました。いつまで不治の病だったかと言うと、驚いたことに十九世紀までそうだったのです。本格的な治療薬が発見されたのは20世紀に入ってからで、ほんとうに最近のことなのです。現在ではハンセン病にかかる人もいなくなり、この世界からハンセン病がなくなるのも時間の問題と言われています。この世界からハンセン病の残酷さが忘れられる日も近づいているようです。それは誠に喜ばしいことなのですが、私たちがここから学ぶ福音は、ハンセン病と共に忘れられてはならないものだと思います。

ハンセン病は当時移る病気と人々から恐れられ、遠ざけられておりました。風上に立つことは許されず、同じ道を歩くことも許されませんでした。そして当時ハンセン病は遺伝するとも考えられておりましたので、ハンセン病患者のいる家族の者とは結婚させるわけにはいきませんでした。すなわちハンセン病患者が発生すると、その人だけの問題でなく家族全体の問題となってしまうのです。そしてハンセン病患者は死んだもの、なき者とされてしまい、家族とは離れて生活しなければなりません。ハンセン病患者は次第に醜くなっていく自分の体を抱えながら一人孤独に生きていかねばならなかったのです。ハンセン病で死ぬことはありませんでしたので、それが一層この病気を残酷なものにしていました。

本日の福音書にでてきましたハンセン病人は、ただ病気にかかっているということだけではなくて、このような残酷な人生を歩み、悲しみの底にある人々だったのです。その人達は全部で十人おりました。主イエス様によって全員が同じように癒されました。治るようになったのが今世紀のことですからいかに大きな出来事であり、喜びであったことでしょう。もう人を避けて生きて行く必要もない、孤独に耐える必要もない、愛する家族と一緒に生活することもできる。そういう喜びが彼らに与えられたのです。それは十人全員に同じように与えられたはずでしたが、感謝のために主イエス様のところに戻ってきたのはただ一人だけだったのです。その人に発せられた主イエス様の言葉、「あなたの信仰があなたを救った」これが本日の一番大切な言葉です。神様から喜びを与えられるのは素晴らしいことではありますが神様の目的ではないのです。神様の目的は喜びをきっかけに主イエス様との出会いを果たし、信仰を持つようになるこ

と。神様に従うものとなることなのです。この人は感謝することによって主イエス様との出会いを果たし、さらに大きな喜びを与えられると共に、神様に従う信仰を与えられたのです。これが不治の病であるハンセン病を癒されたことよりも大きな喜びであるということなのです。

私たちの信仰生活にも、喜びと感謝がありますか、これが本日の福音書を通して与えられた御言葉です。神様の恵みに対して喜び、感謝をささげていますか、と問われているのです。いや、私はそのようなお恵みを神様からまだ与えられていない、ハンセン病が治ったように大きなお恵みを与えられたのならば感謝もしよう、しかし小さなお恵みばかりで心から感謝するようなことは最近神様は私にしてくださらない。そう考える方もおられるかも知れません。しかしそこでよく考えてみたいことは、主イエス様は私たちのために十字架にかかってくださったということです。私たちのために命を捨て、神様にとりなしをしてくださったということです。これよりも大きな感謝すべき御業があるでしょうか。私たちは主イエス様の十字架を忘れてはいないでしょうか。自分個人の救いに関心が集まるゆえに全世界を救おうとされている主イエス様の存在が見えにくくなってはいないでしょうか。喜びを与えてくださることが神様の本当の目的ではないことを理解せず、それだけが救いのすべてになってはいないでしょうか。神様が喜びを与えることによって望んでおられる御心になう人間になることを忘れてはいないでしょうか。主は本日の福音書を通してそのことを問うておられるのです。私たちもまた「あなたの信仰があなたを救った」と言われるものとされたいものであります。